

1 めざす学校像

- 生徒一人一人が成長する学校 ■ 信頼で結ばれた安全で安心して笑顔で過ごせる学校 ■ 地域を大切にする学校
- 教職員が教育活動に責任をもって取り組む学校

2 めざす生徒像

- ◆ 主体的に学習に取り組む生徒 ◆ 自ら学校や地域の行事に積極的に取り組む生徒
- ◆ 他人の気持ちや状況を理解し共感する生徒 ◆ 自制心とやり抜く力をもった生徒

【成果・課題】・自らの進路を意識して授業に取り組む生徒が多い。しかし、基礎学力が定着していない生徒に教室で落ち着いて授業に取り組む姿勢に課題が残った。・学校行事等に意欲的に取り組む生徒が多い。また、地域のクリーン活動にも積極的に参加し、生徒会を中心に活動を盛り上げる企画、運営に携わった。・週1回のいじめ防止対策委員会を通して、いじめと疑われる事案もいじめとして認知し対応したため、いじめの件数は多いが、学校サポートチームに報告し対応方法に意見をいただいて丁寧に対応できた。・行事等では生徒自ら企画運営に主体的に取り組むことができた。授業1時間を落ち着いて取り組む姿勢に課題が残った。

3 めざす教師像

- 常に向上心をもって学びあう教師 ● チームとして成長する教師
- 生徒・保護者・地域から信頼される教師 ● 生徒の力を信じ心に火をつけられる教師

【成果・課題】・校内研修を通して、AIを取り入れた授業(導入の工夫)に取り組んだ。・校内の規則をチーム全体で見直すきっかけの年度になった。・授業の質を上げようとする学ぶ姿勢と、生徒との関わる時間を増やすことができた。・行事の内容など新しい挑戦を提案することができた。すべての内容で生徒を主体的に活動させたい。

4 中期的な目標及び達成させるための方策

○重点目標1「生徒一人一人の学力の向上」

方策① 基礎・基本的な学力の定着 ・グループ学習など協働的な学びや繰り返し学習及び習熟度別少人数学習(数学・英語)の実施。・分かる授業のために情報機器(タブレット、電子黒板など)を効果的に活用する。・小テスト・定期考査・各種の学力調査の結果をもとに個に応じた指導の実施。・生徒が自主的に家庭学習に取り組めるように家庭学習の手引きの見直しとミライボードを活用する。・ボランティア等を活用した放課後(年20回程度)や長期休業中の補習教室を実施する。・小中一貫カリキュラム(元八王子小・武分方小)の実施。

方策② 学習意欲の向上 ・全教育活動において、体験や問題解決的な学習を取り入れ自制心ややり抜く力を身に付けさせる。・できたことを褒めることで自己肯定感を高め、主体的な学習態度を身に付けさせる。・キャリア教育を通して、夢や希望を実現させる気持ち(意識)を高める。・学校司書による読み聞かせなどを通して、10分間の朝読書の定着。・学校司書との協働による図書館を活用した授業の実施。・発問の工夫とともに対話的な授業を取り入れ学習意欲を高める。・SDGsを総合的な学習の時間等の柱として、現代社会における課題に目を向けさせ一人一人に課題解決の方法を考えさせる。・郷土学習を通して、身近な地域の課題から学ぶことの必要性に気づかせる。・週1回の特別支援委員会で、支援を必要とする生徒の手立てを検討し全教員で共通実践をする。

方策③ 授業力の向上(授業での居場所づくり) ・全教師による年1回以上「主体的・対話的で深い学び」の授業研究と協議会を9月までに実施し、授業改善を図る。・校内研修「生徒の実態に応じた指導法の改善、生徒指導の在り方、ICT機器の効果的な活用方法指導と評価の一体化、特別な支援を要する生徒への理解」の実施。・年2回(6月・12月)生徒による授業評価の実施。・9月に授業評価と学力調査(全国・都・市)による授業改善プランの作成と実践。・学習規律の定着。(チャイムと同時に授業の開始と終了)

【成果・課題】

1:基礎学力:特に情報機器の活用した授業展開や小中一貫カリキュラムの充実には成果が見られた。ただ、放課後の補修教室の参加率には課題が残る。2:学習意欲の向上:キャリア教育、朝読書などで学校図書館を活用することで、学習意欲の向上を高めることができた。3:授業力の向上:校内研修を通して授業改善を行うことができた。

○重点目標2「生徒一人一人を大切にしたい教育活動の充実」

方策① 人権教育の充実 ・特別の教科「道徳」を中心に、生命尊重・人権尊重の精神を育む。・週1回の学校いじめ対策委員会の実施、年3回の生徒へのいじめアンケート調査、年3回のいじめに対する授業、年3回の教員対象としたいじめ研修を通して、いじめに対して絶対に許さない態度で早期発見・早期対応に努める。・二者、三者面談の実施、スクールカウンセラーの活用を通して、教育相談を充実させる。・特別支援学級との交流活動を通して、思いやりの心を育てる。・生徒の模範となるように生徒の人権を尊重するとともに生徒と教員とであいさつ運動を実施。

方策② ルールとマナーの徹底 ・年度当初に生徒に授業や学校の決まりを守ることの大切さを説明し、自制心ややり抜く力を身に付けさせる。また、生徒のよりよい成長を願って、学校と保護者との協力体制をつくる。・生徒と共に学校のルールを見直し、授業規律をはじめルールの意義を理解させ、自ら判断できる力を養う。・授業開始・終了時のあいさつを通して、マナー教育を充実させる。・落ち着いた学校生活を送るために教室の整理・整頓をし、学習環境をつくる。・問題行動に対しては、教職員間の連絡を密にし、的確な把握と迅速な対応を図る。

方策③ 体験活動の充実 ・学校行事や部活動を通して、達成感や成就感をもたせるとともに自制心ややり抜く力を身に付けさせる。・地域の行事に参加させることで、地域社会の一員としての自覚をもたせるとともにボランティア精神を育む。・近隣小学校の補習教室への参加を通して、学ぶことの大切さや思いやりの心を育てる。

方策④ キャリア教育の充実 ・職場体験や職業講話を通して、社会に貢献することの大切さや働くことの意義を理解させる。・高校の先生の話やキャリアパスポートを活用して、主体的な進路の選択と将来設計を考えさせる。・地域の人材を活用することで、自分の将来をより身近なものとして考えさせる。

方策⑤ 安心・安全な学校 ・月1回安全指導や避難訓練を通して、基本的な知識や技術を理解し、自ら判断して行動する力を身に付けさせる。

方策⑥ 不登校傾向のある生徒への手立て ・Web 会議ツールを活用し面談や学習サポートの実施。

【成果・課題】

1:アンケート等実施は行うことができたが、全校生徒の心の成長を目指してより充実する必要がある。2:授業開始には間に合っているが、気持ちの準備が間に合っていない生徒が見られた。3:生徒会が中心となり、主体的に取り組むことができた。

4:小中一貫の強みを生かし、15歳の姿まで責任をもった教育に取り組めた。5:「忘れることのないよう」、災害に強い学校を目指す。6:特別教室「MOTTO」を開設できた。使用目的の徹底を図る。

5 その他

○保護者や地域の方に学校の教育活動を理解してもらうために多くの情報を発信する。

○地域運営学校・青少年対策委員会と連携し、地域の教育力を学校教育に生かす。

○教職員が、地域の活動に積極的に参加し連携を深める

【成果・課題】

・担当に責任をもたせることができHPが充実した。

・学校公開や清掃ボランティアなど保護者、地域の方に学校に来校してもらう機会を増やした。

・保護者、地域の方の力をあらゆる面からお借りし、生徒とおともに成長したい。